

2018年のうらら池散策路周辺の植物の植栽状況（その2）

井上尚子

2006年秋に植物公園の中心部にある「かくれ里の『うらら池』」（以下「うらら池」）南西岸の園路が開通して以来、周辺に広島県の野生植物を中心とした植栽・展示を進めてきた。井上（2010）にその生育状況を記録してから5年以上が経過したので、その後の変化について井上・向井（2017）に記録した。

今回は、井上・向井（2017）で取り上げなかった2009年以降植栽した植物を含め、植栽区の概要を記す。また、このエリアで開催する観察会の参考資料としたり植栽展示の改善に役立てたりするために、これまでの観察を通して気づいたことを記す。

1. 植栽区の概要

植栽区は、井上（2010）では、中心となる植栽植物の特徴によってA区（春植物）、B区（木漏れ日の植物）、C区（草原の植物）に区分した。またA～B区に隣接したコンクリートの壁面は、崖地の植物を植栽・展示する区域とした（南側：壁S、北側：壁N）。

今回も井上（2010）と同じ植栽区分を用いるが、新花菖蒲園が造成されるなど周辺の整備が進んだので、B区とC区については当初の区域を拡張した（図1）。尚、うらら池上流部の湿地の植栽については井上ほか（2018）で報告したので、今回は触れない。



図1 新しく造成された園路と拡張された植栽区域。2018年4月5日

A区（春植物コーナー）

【主な展示植物】カタクリ、セツブンソウ、ユキワリイチゲ、フクジュソウ、ニリンソウ、オオミスミソウ

【その他の展示植物】レンプクソウ、アマナ、カントウマムシグサ、オモゴウテンナンショウ、マイヅルソウ、ギョウジャニンニク、斑入アマドコロ、マルバスマレ、タチツボスマレ、シュンラン、キツネノカミソリ、キバナホトトギス、ホトトギス、キバナイカリソウ、ヒメスゲ、ヒカゲスゲ、ホソバヒカゲスゲ、ツルニンジン、セイヨウブナ、ハウチワカエデなど

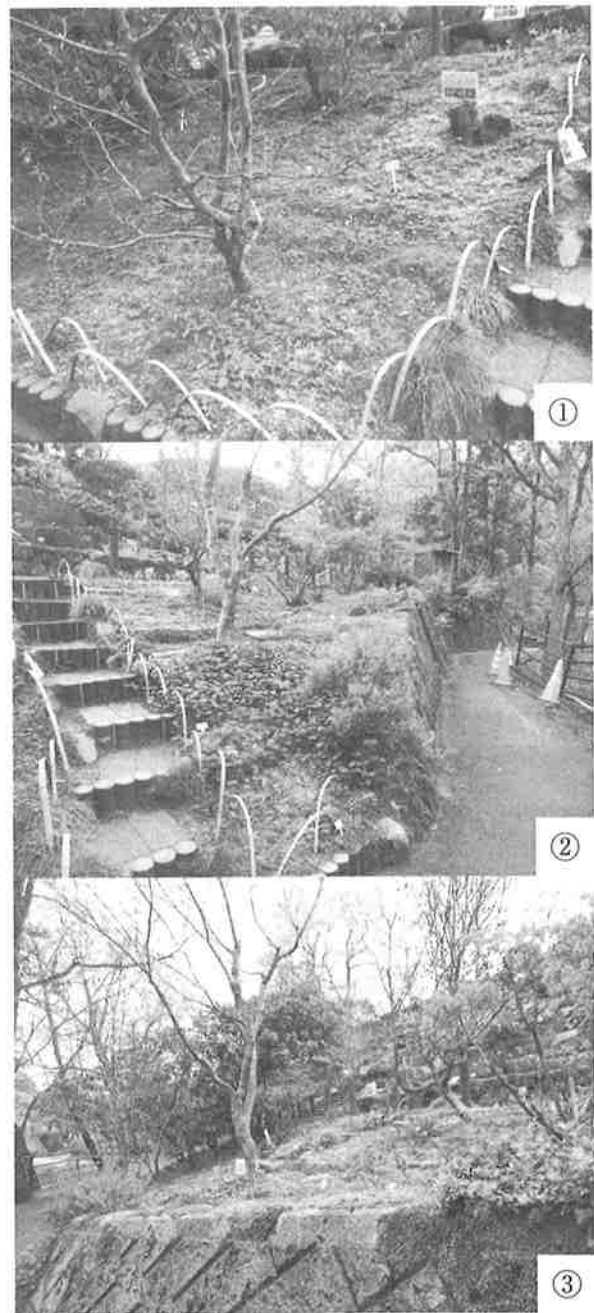


図2 ①：A区南半分、②：A区北半分。2018年4月11日。③：別の角度から見たA区。2018年4月5日

【A区の主な植栽植物の由来】

- ・カタクリ：2009年6月1日に広島市佐伯区在住の佐原氏から、氏の持ち山（佐伯区）に自生するものを分けていただいた。球根を24個（開花見込み10個）、種子数百粒。
- ・セツブンソウ：1997年3月、灰塚ダムの工事のために失われる自生地にあった2個体を、関太郎広島大学名誉教授経由で預かった。今あるのはその子孫である。
- ・ユキワリイチゲ：1997年、広島市安佐北区で市道が拡幅されたとき、工事で失われる自生地の個体が市民によって持ち込まれた。
- ・ニリンソウ：山野草愛好家から譲り受けた産地不明のものと、広島市佐伯区に自生していたものなど、複数の系統を含むが、区別していない。
- ・フクジュソウ：購入。
- ・オオミスミソウ：「ユキワリソウ」の名で購入。

B区（木漏れ日の植物コーナー）

【B区で活用したい自生植物】

B区に自生する主な植物のうち、展示に活用したいものを以下に挙げた。このエリアで1個体しか確認していないものには右肩に※印をつけた。

- ゼンマイ科 ゼンマイ
- ウラジロ科 ウラジロ
- シシガシラ科 シシガシラ
- オシダ科 オオベニシダ、ベニシダ、ヤブソテツ
- ウマノスズクサ科 サンヨウアオイ
- ユリ科 ササユリ※
- クサスギカズラ科 ナガバジャノヒゲ
- カヤツリグサ科 ナキリスゲ、ヒメモエギスゲ
- イネ科 ネザサ
- マメ科 コマツナギ、ツクシハギ、ヌスビトハギ
- クワ科 ヒメコウゾ※
- バラ科 ザイフリボク※
- ブナ科 アベマキ、アラカシ、クリ、コナラ
- カバノキ科 アカシデ
- スミレ科 コタチツボスミレ
- アジサイ科 コガクウツギ
- サカキ科 ヒサカキ
- サクラソウ科 マンリョウ、ヤブコウジ
- リョウブ科 リョウブ
- ツツジ科 アセビ、カンサイスノキ、コバノミ
- ツバツツジ、シャシャンボ、ヒメヤマツツジ
- シソ科 アキノタムラソウ、ムラサキシキブ
- モチノキ科 イヌツゲ

- キキョウ科 サイヨウシャジン
- キク科 アキノキリンソウ、コウヤボウキ
- ウコギ科 コシアブラ※
- ガマズミ科 コバノガマズミ※、ミヤマガマズミ
- スイカズラ科 コツクバネウツギ※

【B区の区分け】

B区は、うらら池から水をポンプで汲み上げ流す区域（水流のある区域）、園路そばまで北東斜面が迫っていて林縁と呼んだほうがよい区域、区域内には大きな木が生えていない北向き斜面、新たに拡張された区域に分けられる。それぞれの主な展示植物を記す。

【水流のある区域周辺の主な植栽植物】

ヤシャゼンマイ、ホソバショリマ、クラマゴケ、シロバナショウジョウバカマ、キイジョウロウホトトギス、（エビネ）、ナルコスゲ、フサナキリスゲ、ショウジョウスゲ、コウヤハリスゲ、ムカゴツヅリ、（バイカイカリソウ、スズフレイカリソウ）、トウゴクサバノオ、サンインシロカネソウ、ウワバミソウ、ハルトラノオ、ミズタビラコ、アキノハイルリソウなど

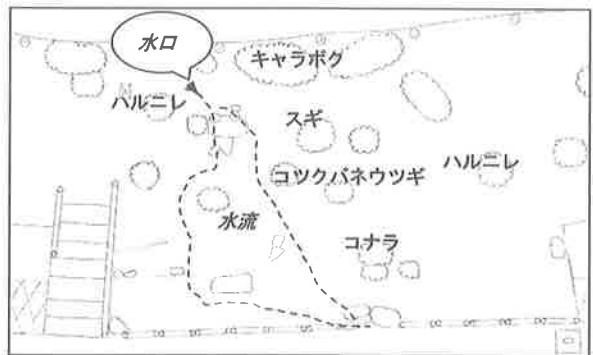


図3 B区の水のある区域。2018年11月20日

【ギンランの生育】

水流がある区域の周辺では、完成した数年後からギンランが生えるようになった。ギンランは、樹木と菌類の間の「菌根菌」のネットワークの中に割って入り炭素源やミネラルを得るといふユニークな生活様式を持っていて展示植物としておもしろいので、今後もここで維持していきたい。しかしこれまでの導入記録は無く周辺に自生していたものなのか、他の植栽植物に種子が混じっていたのが広がったのか、不明である。



図4 B区に生えるギンラン。2018年5月1日

【林縁の主な植栽植物】

林縁は、コウヤボウキやコガクウツギ、サンヨウアオイなど、自生植物が展示の中心である。これに加えて植栽した主なものを以下に記した。

ヒトリシズカ、キビヒトリシズカ、マムシグサ、ヒガンマムシグサ、キバナホトトギス、オオバノトンボソウ、キエビネ、タカネ、ミドリヨウラク、イカリソウ、ヤブサンザシ、ネコノチチ、コクサギなど



図5 林縁の様子。2018年10月26日

【新しい園路沿いに拡張したB区】

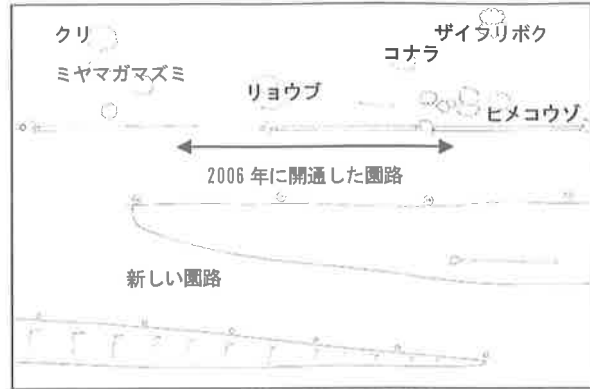


図6 新しく開通した園路沿いに拡張されたB区
2018年11月20日

【新しい園路上部に拡張したB区の主な植栽植物】

フタリシズカ、キビヒトリシズカ、クロフネサイシン、フタバアオイ、ヒメナベワリ、ホトトギス、ユキザサ、オオバショウマ、ヤグルマソウ、オニシモツケ、サワダツ、ヤマアイ、ギンバイソウ、ハシリドコロ、キクガラクサ、キバナアキギリ、シソバタツナミソウ



図7 新しい園路上部に拡張したB区。2018年6月5日

【新しい園路下部に拡張したB区の主な植栽植物】

ヒメヤブラン、オクノカンスゲ、コカンスゲ、ヒロハノオオタマツリスゲ、タヌキラン、セリバオウレン、コバノフユイチゴ、セトウチウンゼン、トラノオスズカケ、ウツボグサ、ダジマタムラソウ



図8 新しい園路下部に拡張したB区。2018年6月5日

【北向き斜面の主な植栽植物】

フタリシズカ、ユキモチソウ、ヤマジノホトトギス、エビネ、オオバギボウシ、カンスゲ、ニシノホンモンジスゲ、ササノハスゲ、ウツクシザサ（上部）、スズフリイカリソウ、レンゲショウマ、ヤグルマソウ、キバナアキギリ、ヤブレガサ。



図9 北向き斜面。2018年6月23日

C区（草原の植物コーナー）

【C区で活用したい自生植物】

ホシダ、センニンソウ、ノコンギク、ノアザミなど

【草原コーナーの主な植栽植物】

アヤメ、ツクシマツモト、センノウ、キキョウ、ヒゴタイ、オミナエシ



図10 C区。2018年5月1日



図11 C区。2018年6月17日

【新しい園路上部に拡張したC区の主な植栽植物】

オウゴンオニユリ、オニユリ（八重咲）、ヤブカンゾウ、アヤメ、ヒガンバナ（広島市佐伯区下河内産。種子ができる珍しい系統）、スズラン、オオムギスゲ、ムギスゲ、オオナキリスゲ、ホソバヒカゲスゲ、ケスゲ、ヒカゲスゲ、コウボウ、ミチノクフクジュソウ、ヒメヘビイチゴ、ノヤナギ、ヒメトラノオ、ゴマノハグサ、イブキジャコウソウ、カセンソウ、ヒゴタイ、オミナエシ、エヒメアヤメとその自生地由来の植物（詳細は次項）。



図 12 新しい園路上部に拡張したC区。2018年7月2日



図 15 エヒメアヤメを植栽するために整備した区域。C区 2017年5月6日



図 13 新しい園路上部に拡張したC区。2018年7月1日

広島県北部の「大地のかけら」の中にも含まれる埋土種子や地下茎などに由来する野生植物も展示に活用したかったので、C区内で2×2㎡の地表を10～20cm剥ぎとって植栽場所とした。「大地のかけら」を設置した周りは、赤玉土、腐葉土、まさ土の混合土を補った。

エヒメアヤメは2018年4月に開花し、エヒメアヤメと一緒に持ち帰った土壌由来の野生植物は、必要に応じて周辺に移植したり、抜き取ったりした。

【エヒメアヤメの自生地由来の植物】

2017年5月6日に広島市在住の津田勉氏より広島県北部の持ち山のエヒメアヤメ自生株を、周辺の土ごと「大地のかけら」のような状態で分譲いただいた。



図 14 エヒメアヤメを含む「大地のかけら」
2017年5月6日



図 16 開花したエヒメアヤメ。2018年4月13日



図 17 「大地のかけら」由来のキジムシロ
2018年4月5日

エヒメアヤメと一緒に持ち帰った土壌由来の野生植物のうち確認できたものを、以下に記す。レンゲツツジ、シバスゲ、トダシバ、タチドコロ、キジムシロ、ササ sp. (未同定)、キバナキビシロタンポポ？ (以上7種は今後植栽展示に利用)、シラヤマギク？ (調査中)、サワヒヨドリ、アキノキリンソウ、アキノタムラソウ、ミツバツチグリ (以上5種は周辺に自生株はあるが遺伝資源として保護する意図は無いので、特に隔離せず展示に活用)、ハキダメギク、スギナ (以上2種は雑草として抜き取り) の合計14種。

壁S、壁N (崖地の植物コーナー)

【壁Sの主な植栽植物】

シノブ、トキワシノブ、イワヒバ、イワオモダカ、アオネカズラ、イヌカタヒバ、ヒトツバシケシダ、オリヅルシダ、コウヤマキ、ヤマグルマ、ヤマトレンギョウ、チョウセンヒメツゲ、チトセカズラ、シロヤマブキ、ヒメウツギ、ホタルカズラ、スズカケソウ、ツルマサキ、ジンジソウ、ウラジロギボウシ、セトウチギボウシ、ウナズキギボウシ、イトスゲ

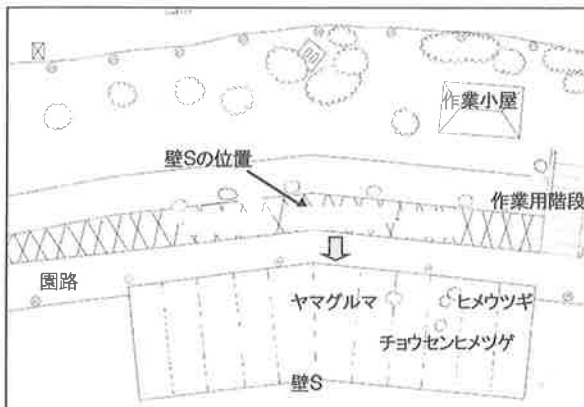


図18 壁S。2018年6月16日



図19 壁S。2018年4月5日

【壁Nの主な植栽植物】

イワヒバ、イヌカタヒバ、ウナズキギボウシ、セトウチギボウシ、トラノオスズカケ、オオメノマンネングサ、オノマンネングサ、コオニユリ、ホタルカズラ、イワガラミ、イヌヨモギ、ホウライカズラ、ホタルブクロ、ヤマブキ

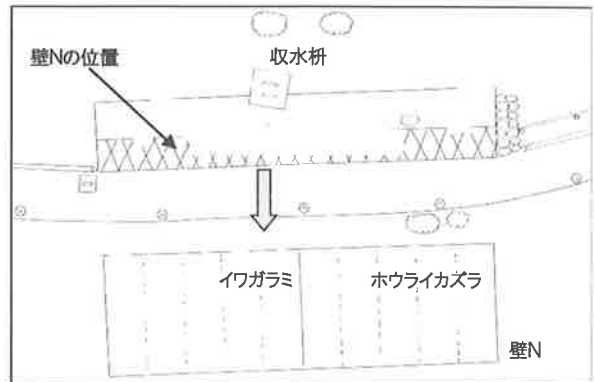


図20 壁N。2018年6月12日

2. 観察結果、気づきなど

【アレチヌスビトハギとヌスビトハギ】

北アメリカ原産の帰化植物であるアレチヌスビトハギは園内で蔓延しているが、在来のヌスビトハギは今の時点ではB～C区の地山が残っている場所でしか見られない。



図21 ヌスビトハギ (C区。2016年8月30日)

【タンポポの仲間】

園内でこれまで確認したことがあるタンポポの仲間は、シロバナタンポポ (管理道西側、ツツジ・シャクナゲ園など)とセイヨウタンポポ(管理道西側、ツツジ・シャクナゲ園、芝生広場周辺など)の2種で、アカミタンポポを含め、その他のタンポポはみたことがなかった。しかし、2017年5月にエヒメアヤメをC区に移植してから1年後の2018年4月に、移植したすぐそばにキバナシロタンポポと思われる株が花を咲かせた (図22)。



図22 キバナシロタンポポ? 2018年4月11日

また、タンポポ調査西日本2015のときに「ヤマザトタンポポ」と同定された株を、うらら池上流域の平地に植栽した。うらら池の周辺ではこれまでタンポポの仲間は見ることがなかったが、今後はこれらが逸出する可能性があるので、記録しておく。



図23 セイヨウタンポポ。管理道西側。2018年4月1日



図24 シロバナタンポポ。管理道西側。2018年4月3日



図25 シロバナタンポポ。ツツジ・シャクナゲ園
2018年4月4日

【うらら池周辺で確認したカメについて】

2018年にうらら池周辺でクサガメ、ミシシッピアカミミガメ、ニホンイシガメの3種のカメを確認したので記録する。

尚、複数の人から「昔からこの周辺でよく見かけたのはイシガメだった」という話を聞いている。また、日本庭園等で私が見たのもニホンイシガメであった。ミシシッピアカミミガメがこの地に入ってきたのは、最近のことと思われる。せっかく今までこの地で生きながらえてくれていたニホンイシガメの生息域が侵略されるほど増殖する前に、ミシシッピアカミミガメを駆除できる方法を考えたい。

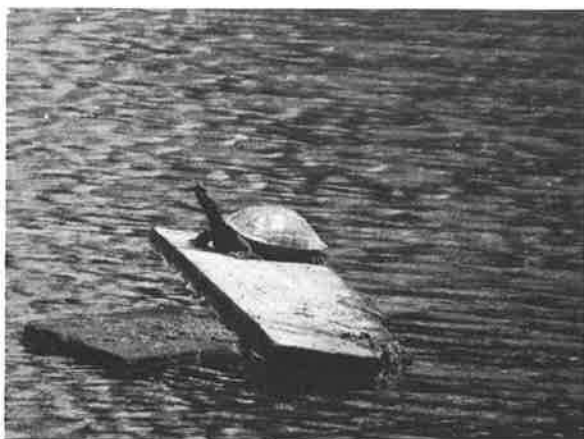


図 26 クサガメ。2018年4月26日



図 27 甲羅干しする真ん中のカメがミシシッピアカミミガメ。2018年5月20日



図 28 ニホンイシガメ。うらら池横散策路にて。
2018年6月25日、夕方



図 29 ニホンイシガメ。日本庭園。
2018年10月20日

【謝辞】本文中の植栽図は広島市植物公園ガイドボランティア秦治彦氏の図を利用して作成しました。ここに記し、御礼申し上げます。

【引用文献】

- 井上尚子 2010. 日本の野生植物栽培記録③ ～うらら池散策路周辺の栽培記録～. 広島市植物公園栽培記録 31号: 8-16.
- 井上尚子・向井昭彦 2017. 2016年のうらら池散策路周辺の植物の生育状況(その1). 広島市植物公園栽培記録 38号: 33-38.
- 井上尚子・佐々木修・向井昭彦 2018. うらら池上流の湿地の植栽展示について. 広島市植物公園栽培記録 39号: 15-22.